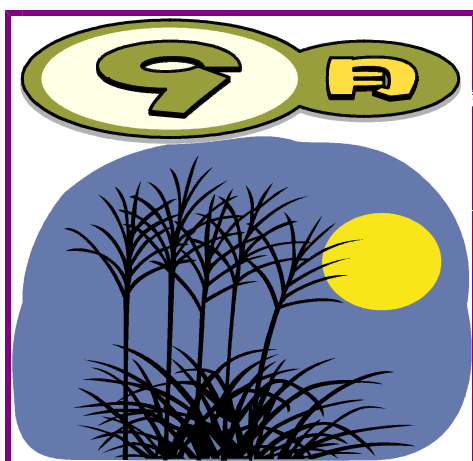


めぐみイエス・キリスト教会

2025年9月28日(日)第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第777号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌311「いかに恐るべき」	p. 494
【交読文】	No.58 コリント人への手紙Ⅰ 15章	p. 926
【賛美Ⅱ】	新聖歌454「立ちあがれいざ」	p. 730
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【前回説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲「神様は」	
【聖書朗読】	ルカの福音書11章5節～10節 (p. 137上段)	
【礼拝説教】	《求める者たち(その①)》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所

11:5 また、イエスはこう言われた。「あなたがたのうちのだれかに友だちがいて、その人のところに真夜中に行き、次のように言ったとします。『友よ、パンを三つ貸してくれないか。』

11:6 友人が旅の途中、私のところに来たのだが、出してやるものがないのだ。』

11:7 すると、その友だちは家の中からこう答えるでしょう。『面倒をかけるのでほしい。もう戸を閉めてしまったし、子どもたちも私と一緒に床に入っている。起きて、何かをあげることはできない。』

11:8 あなたがたに言います。この人は、友だちだからというだけでは、起きて何かをあげることはしないでしょう。しかし、友だちのしつこさのゆえなら起き上がり、必要なものを何でもあげるでしょう。

11:9 ですから、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。

11:10 だれでも、求める者は手に入れ、探す者は見出し、たたく者には開かれます。

●ポイント1.「友」とは？

※ヨハネの福音書15章15節「ヨハネ・マルコの家にて」 （新約p.216）

15:15「私はもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。私はあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。」

●ポイント2.「時」とは？

※伝道者の書3章1節および11節「ソロモンの言葉」 （旧約p.1141）

3:1 すべてのことには定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある。

3:11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行なうみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。

●ポイント3.「主イエスの約束」とは？

※ヨハネの福音書14章13節～14節「最後の晩餐にて」 （新約p.214）

14:13 「また私は、あなたがたが私の名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。

14:14 あなたがたが、私の名によって何かを私に求めるなら、私がそれをしてあげます。」

◎先週のメッセージ【主の祈り】

《「主よ。ヨハネが教えたように、私たちにも祈りを教えて下さい。」》

この質問をしたのは誰か分かりませんが、十二使徒の中のペテロの弟アンデレとゼベタイの子ヨハネは、バプテスマのヨハネの弟子でした。彼らは、ヨハネの祈祷文を教わっており、覚えています。その申し出を受けて、主イエスは「主の祈り」を教えます。マタイの福音書の「山上の垂訓」の中にも「主の祈り」がありますが、若干異なっていて、ルカとマタイの福音書による「主の祈り」は、同じ時と場所ではなく、全く別の時点において、主が弟子たちに教えられたことが分かります。

「父よ、御名が聖なるものとされますように。」主が言われた「御名」とは、「主イエスの御名」のことです。「救いの御名」はこれだけです。

「御国が来ますように。」御国とは、「天の御国」を指す事も事実ですが、この地上における「御国」のことです。すなわち、主イエス・キリストが再臨されて、この地上に建てられる「千年王国」のことです。

「私たちの日ごとの糧を、毎日お与え下さい。」私たちは、肉体を持っています。肉体は、水と食物を要求します。「日ごとの糧」とは、今日一日分の食料のことで、それを毎日お与え下さいということです。主イエスは、「山上の垂訓」において、次のように教えています。

『「ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」』と。

「私たちの罪をお赦し下さい。私たちも私たちに負い目のある者をみな赦します。」この時点では十字架はまだ先のことです。十字架によって罪赦された者だからこそ、他人の罪を赦すことが出来るのです。「私たちを試みにあわせないで下さい。」「試み」とは、神様が私たちの信仰を増し加える為に、悔い改める為に与えるものです。しかし「誘惑」は悪魔からやって来ます。惑わされてはならないのです。》

◎お知らせ

※次回、10月5日第一主日礼拝は、斉藤順子先生のメッセージです。